

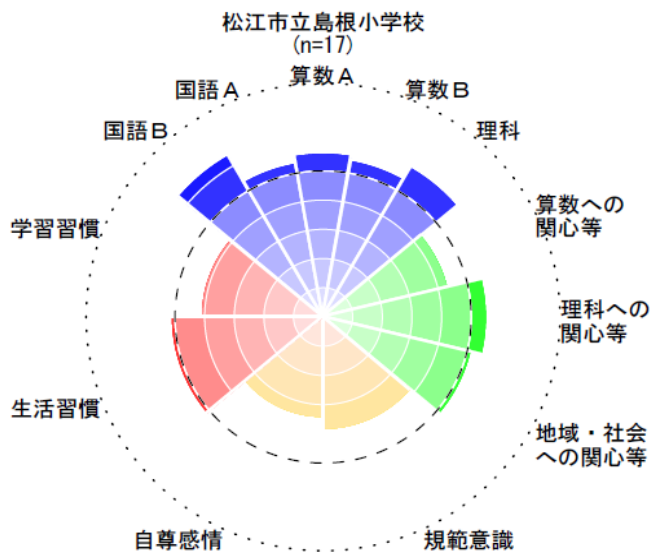
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題（○：成果，●：課題）	対 策
国語	A （基礎）	○漢字と語句の知識は身につけている。 ●主語と述語の関係を正しく書くことが苦手である。	・主語と述語を意識しながら、話したり書いたりできるとともに、自分の書いた文や文章を推敲する学習を増やす。
	B （活用）	○互いの立場や意図をはっきりさせて話し合えることができる。 ●複数の文章から必要な情報をまとめて書くことに慣れていない。	・複数の文章から目的に合わせて必要な情報を見つけ、それらを関係づけて、相手にわかりやすい文章を書く活動を取り入れる。
算数	A （基礎）	○単位量あたり、角度、グラフなどの、計算以外の内容に定着が見られる。 ●小数の扱い方や、円周と面積の公式を使った演算決定に混乱が見られる。	・小数の意味と、乗除の計算結果の大小の違いについて再確認する。 ・円の学習を進めるに当たって、作業的・体験的な活動を通して、直径と円周の長さの関係について理解させるようにする。
	B （活用）	○手順に従って解いていく問題は正しくできる。 ●複数の情報から正しいものを読み取って使うことが苦手である。	・日常生活においても、複数の情報を解釈し関連付けて論理的に考察する活動を増やす。
理科		○題意の把握ができ、最後まで解こうという意欲が見られる。 ●複数の資料を関係付けて総合的に判断することが苦手である。	・学習したことを生活や自然の中で適用して考えたり、活用したりする学習を取り入れた り、意識付けを図ったりする。 ・児童に問題意識や結果の見通しを持たせ、その結果からより妥当な考えに改善できるよ うな学習の流れを作る。

(2) 生活意識調査から見られた傾向

成果と課題（○：成果，●：課題）	対 策
○家庭との結びつきは強くはないが、地域の活動には参加していて結びつきはある。 ○読書は、学校での読書タイムや、隙間時間に読む姿が見られる。 ●スポ少に入っている児童の割合が高く、放課後や土日に多くの時間を使っており、家庭学習に時間を割けていない。 ●算数に対して苦手意識が強い。	・児童が「自分ができる」という気持ちを持てるような手立てを講じる。 ・正しい答えが出たら終わりということではなく、いろいろな解き方を考えさせたり、課題を解決したときの達成感を味わったりさせるなど、思考する楽しさを味わわせるような手立てを講じる。 ・学習したことが、総合的な学習や日常生活で生かせることを体験させ、学習の有用感に気づかせる。

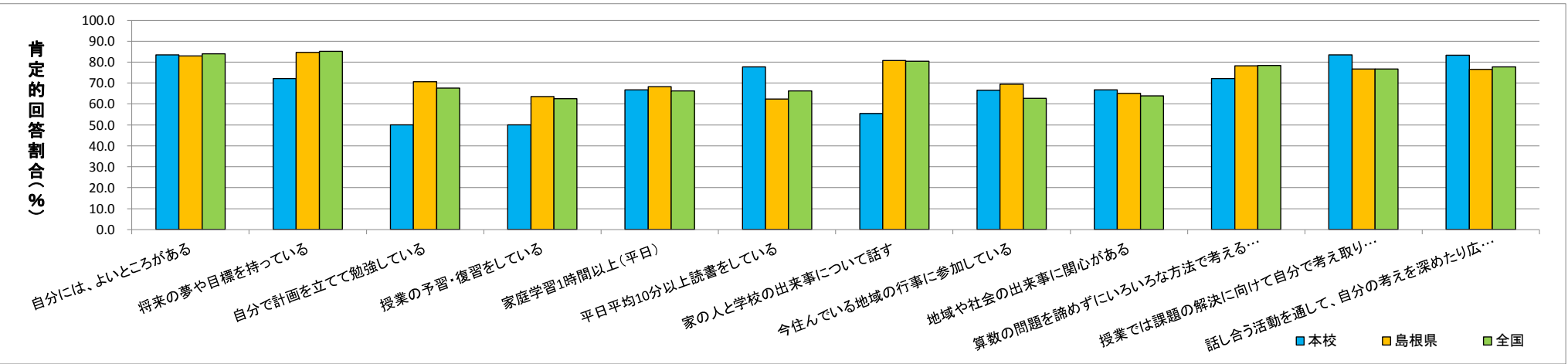
(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・放課後「ぐんぐんタイム」で、学力補充をする。(担任を中心に管理職を含めた複数体制で指導をする。) ・家庭学習や家族で話し合う時間を増やせるよう、課題を工夫したり働きかけを行った りする。
--

(3) 意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



【参考】

○平均正答率

		本 校	松江市	島根県	全国
国語	A	73	70	68	70.7
	B	66	57	55	54.7
算数	A	68	62	61	63.5
	B	55	50	49	51.5
理科		67	59	58	60.3

受検者数 17 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。